

後期就労支援員養成研修

2017年12月6日 in ロフオス

【講義と演習③】就労支援を通じた地域づくり

(一社)釧路社会的企業創造協議会副代表

釧路市・釧路管内生活相談支援センター長 櫛部武俊

生活保護自立支援(釧路モデル)から生活困窮者自立支援へつなぐ

- ◇ 自立支援を当事者目線でみると当事者自身の自尊感情の回復・承認・役割の獲得という当事者の発達保障である。



- ◇『一時生きる場から退場した状態にある受給者(困窮者)が自身で生きる場を再獲得していく、発達する権利主体として立ち上がっていく当事者自身の回復過程の最初の間という積極的な意味と支援の構造を生み出す』
(第二次ワーキンググループ報告書)

生活困窮者自立支援が目的とする【人の尊厳】に通底する

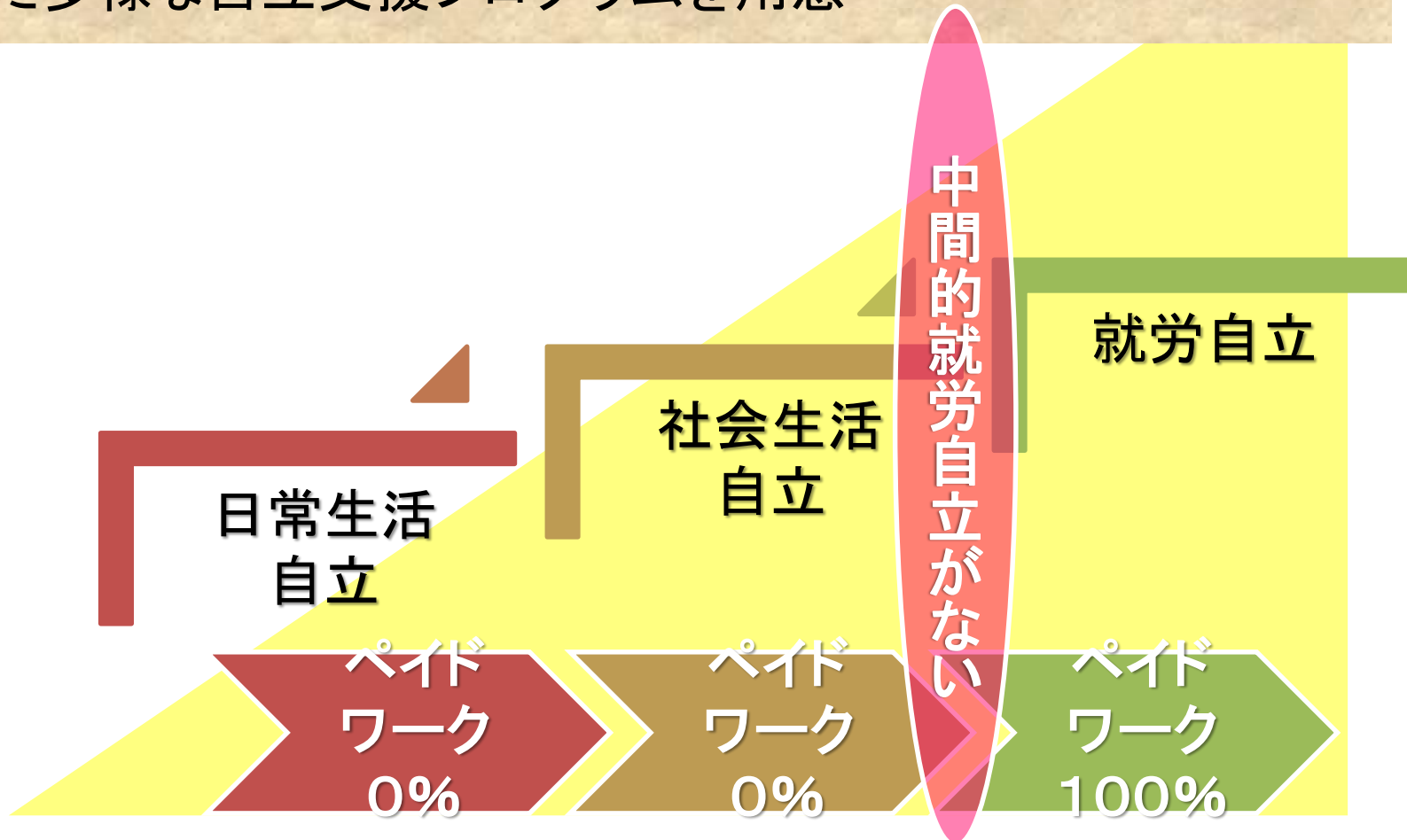
『かけがえのない私の獲得』

沿革

年度	内容
平成16年	釧路市生活福祉事務所が、母子世帯の母親を対象にした自立支援に取り組み、「自立支援プログラム釧路モデル」がスタート。
平成24年	一般社団法人釧路社会的企業創造協議会を設立し、釧路市より緊急雇用創出推進事業を受託。「社会的居場所づくりと連動した雇用の創出研究事業」を実施する。
平成25年	緊急雇用推進事業で創出された事業を実施するため、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業(整網作業)」を受託。合わせて、釧路市と北海道より「自立相談支援事業」のモデル事業も受託した。また、厚生労働省・社会福祉推進事業「生活困窮者等への中間的就労(非雇用型)の場のモデル創出事業」も実施。
平成26年	引き続き、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業」、釧路市・北海道より「自立相談支援事業(モデル事業)」を受託。さらに「就労準備支援事業(モデル事業)」も受託した。
平成27年	生活困窮者自立支援制度として、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業(被受給者就労準備支援事業)」・「就労準備支援事業」、釧路市・北海道より「自立相談支援事業」を受託。

釧路モデルの分析

ただちに就労困難、あるいはケースワークだけでは就労困難な生活保護受給者を対象にご本人の「ステージ」に応じた多様な自立支援プログラムを用意



漁網の仕立て作業等



地域で支えられていた人が 支える人に回る仕組みを構築

生活困窮者支援を通じた地域づくり

- 漁業は、釧路市・厚岸町の基幹産業であるが、その下支えをしている漁網業界の現場（整網作業）で高齢化が進み、担い手不足により業界の存続が危惧されている。
- 整網作業は、機械化するのが困難であり、今後も手作業に頼るしかないのが現状である。
- 新たな担い手が生まれにくい大きな要因は、作業の習熟度が上がらないと、一定の収入が得られないことにある。
- そこで、本協議会の取り組む中間的就労自立の場として、整網作業に取り組み、同時に問題解決を図るのが狙いである。

釧路市都市経営戦略プラン

人材育成と 雇用づくり



生活保護受給者の
就労の様子
(自立支援プログラム)

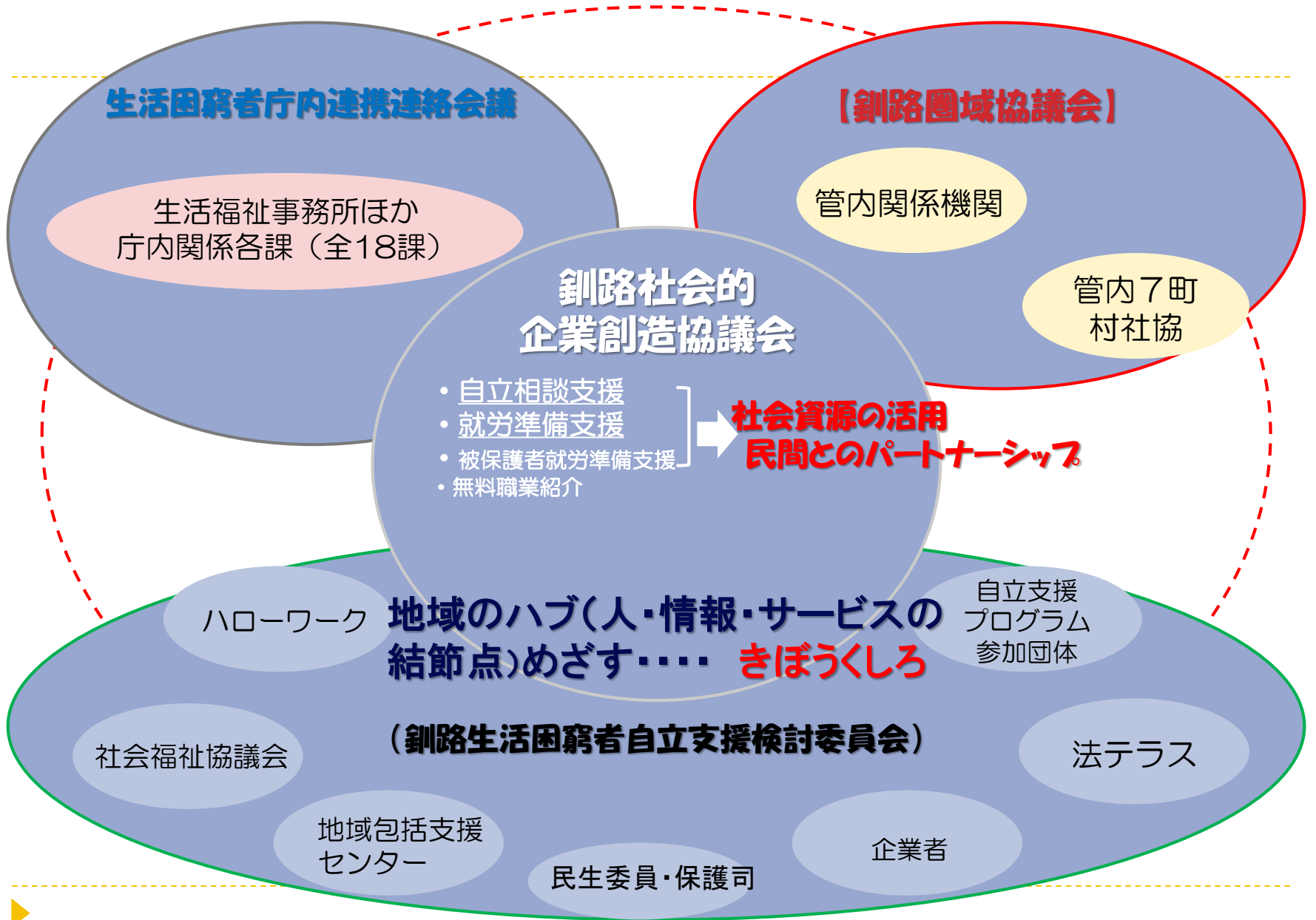
地域の労働力を向上させ、釧路市を支える確かな基盤を作るため、地域経済を支える人材の育成に取り組みます。

新たな雇用の場を創出するため、企業と求職者のマッチング、雇用の場となる中小企業の支援を行うほか、ソーシャルビジネスによる雇用づくりに取り組みます。

具体的な取組例

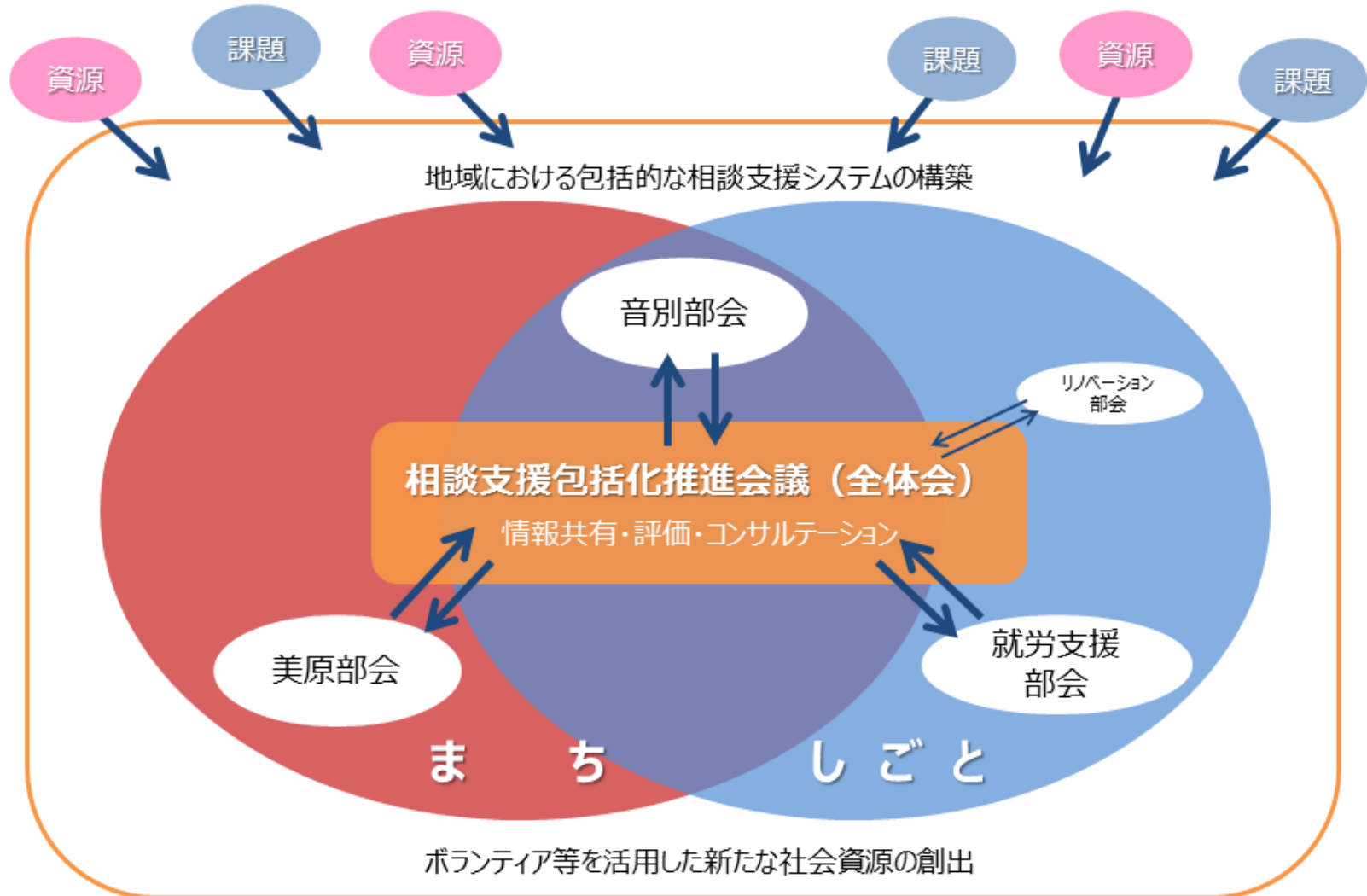
- 将来の担い手である子どもたちに向けた、職業や社会を体験できる場づくりや学んだことを社会で実践できる場づくり など
- 釧路における様々な事業を支えるための有資格者の養成や人材育成を図る取組
- 生活保護受給者の中間的就労自立に向けた調査研究
- 地元技術や匠（人）の認証制度など頑張る企業、挑戦する企業を応援する取組
- ソーシャルビジネスの担い手となるNPOなどが活動しやすい環境づくり

つながる



包括的な相談支援システム構築事業について

以下のような具体的な試みを通じて、協働による包括的支援体制を構築する。



みはら・かがやき食堂・・普遍性を学ぶ学校



旧音別町の就労・就農支援を通じ地域づくりと切り結ぶ

- ◆人口減 2005年平成の
 - ▶ 大合併人口2,756人⇒
 - ▶ 2019年人口1,909人に減少
- ◆中心から周辺になる。議員ゼロ。
- ◆基幹産業は酪農・林業・酪農ヘルパーはベトナム人、林業は大企業、林業で隙間産業ができない地域
- ◆2世になる自生蕨(秋田蕨)が枯渇。
- ◆営農を辞める酪農家たち
 - ▶ 生活困窮する・点在する住民→
 - ▶ 孤立化防止とこの地に根ざした取り
 - ▶ 組み・・音別部会立ち上げ

つなぐ・・・地域にはつなぐ人がいる。その方々を発見するのが専門家・機関等関係機関の役目。関係機関が事業化につながり太って地域が痩せるのでは本末転倒。

労働と地域・・・通い場づくりと地域創生とを同軸で考える。地域づくりは暮らしづくり。多様な中間的就労は雇用やワクワク感、希望をもって生きること

当事者性・・・難しくてすぐ『支援・政策側』の理屈になる。傍にること、自分の弱さをさらすことから。

